

令和元年度 第1回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和元年8月18日(日) 14時00分～16時20分
場 所	松戸市立博物館 会議室
出席者	<p>委員 大島 賢一 委員 大西 一樹 委員 山口 恵理子 委員 岡田 啓峙 委員 谷鹿 栄一 委員 百田 清美 委員 安蒜 政雄 委員 濱島 正士 委員 佐藤 孝之 委員 小島 孝夫</p> <p>(事務局)</p> <p>教育長 伊藤 純一 生涯学習部長 片田 雅文 博物館館長 望月 幹夫 博物館職員 7人</p>
議 題	<p>(1) 令和元年度博物館事業概要の説明 (2) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定の今後の進め方について (3) 計画の骨子について (4) 企画展「こどもミュージアムーおとなも楽しい歴史体験ー」視察見学、意見交換 (5) その他</p>
公開・非公開	公開 (傍聴者 0人)
配布資料	<p>会議次第 計画策定体制(案) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定スケジュール(案) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について(答申) 松戸市立博物館 今後の事業計画(案) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画の策定について</p>

【 議事 】

(1) 令和元年度博物館事業概要の説明

事務局から令和元年度博物館年間行事予定について説明。

(2) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定の今後の進め方について

事務局から説明。

会 長：博物館全体のリニューアルとして展示だけでなく施設の老朽化に伴う改修を併せて進めていくとのことである。(仮) こども歴史博物館については、先行して答申したという位置づけである。

(3) 骨子について

事務局から説明。

会 長：公園事務所、森のホール21との三館連携について、説明してほしい。

事務局：昨年度末には、「太鼓展」を開催し、21世紀の森と広場では太鼓の団体が演奏をし、森のホール21では太鼓のコンサートが開催され、大変好評であった。また、今年度、3館の若手職員によるプロジェクトを立ち上げた。

委員A：この基本構想は、是非成功してもらいたいと思う。リニューアルに成功している先進館の視察をすることを希望する。

会 長：予算、人材の問題もあるが、松戸が模範的なリニューアルになるように期待する。

委員B：こどもミュージアムは今までの展覧会と比較して、ひと皮むけているという期待感がある。

委員C：中学校が博物館を利用しているイメージはあまりない。小学校では利用しているが、学校の授業とどう絡めて利用できるか考えてほしい。

委員A：リニューアルとあわせて、収蔵庫は大丈夫なのか。

事務局：いっぱいである。

委員D：どこも8、9割収蔵庫は埋まっている。他の場所につくるとなると出し入れのたび人手がかかる。県立博物館でも問題になっている。

会 長：教育長、何かご意見はあるか。

教育長：松戸は、県の北西部に位置し、要素としてチャンスがある。図書館も博物館も良い方向に持って行きたい。課題の収蔵庫だが、学校施設は学校教育のみならずいろいろな活用方法がある。戸定歴史館の拡張の話もある。数年前よりは、市の人事は理解を示している。議員にも、

文化に力を入れなくてはという意識が高まっている。AIという言葉が飛び交う世の中で、市として子どもたちにどれくらいのエネルギーを注げるかがこれからのカギだと思う。

(4) 企画展「こどもミュージアムーおとなも楽しい歴史体験ー」視察見学、意見交換について

※企画展示室観覧視察。

会 長：広い立場での意見を願います。

委員E：来場者の内訳は。

事務局：客層は子連れが多い。低学年の子どもが多く、楽しく遊んでいるなどという印象である。

委員E：例年以上に賑やかな雰囲気という印象を受けた。内容は未就学児には難しいと思うが、興味の入り口、学びの入り口としては良いと思う。写真のコーナーは、自分と昔の結びつきが薄いのかなという印象で、もっと情報やストーリー性がほしい。

委員D：分かりやすい展示だった。「たんけんてちょう」は子どもにも見て理解できる。あずきを量るコーナーもよかった。

委員E：こどもの声が響く空間だった。生活の知恵が知識になり文化になる。蚊帳や着物のコーナーがよかった。

委員A：インストラクターをつけたのはよいと思う。子どもと親をうまく繋ぐ役割を果たしていた。「(仮) こども歴史博物館」は余裕のあるレイアウトだと良い。

委員G：昨日の読売新聞に、この企画展が好意的に書かれていた。会場の解説板にルビがふってあるが内容は易しくないため、工夫が必要である。こども自身が参画できる場面はあるのか。松戸は遺跡の活用は最低だと感じているので、遺跡との関わりを具体的な形で盛り込んでほしい。

委員H：学校教育としては、小学3年生の社会科単元の「昔の暮らし」の授業で博物館と関わる。教員として、博物館との橋渡しができると感じた。

委員I：本物にさわるということは良いことだと思う。

委員C：博物館の目指すことと学校教育とが一致するには、今の生活と結びつけることで学びが深まる。小学生はこどもだけで学区外に出られないため、親世代に連れてきてもらう必要があり、今の若い母親はSNSに自分の子どもをアップする人が多い。着物のコーナーは、いわゆる「インスタ映え」すると思うので、そういった意味でもおもしろい。

会 長：今回の展示は工夫されていると思うが、パネルは文字が多すぎると感じた。子どもたちは読まないのではないか。近世の展示がないので、

近世の寺や神社も展示に取り上げてほしい。

会 長：テーマの展示替えもあるのか。

事務局：メニューの数を深めるよう、検討したい。

委員F：(こども新聞掲載の) こどもモニターによる「理想の博物館」はすばらしい取り組みである。後日、詳しく説明してほしい。

(4) その他について

事務局から、次回の協議会日程を11月16日(土)とすることを案内。